

はじめに

2015年3月、私は福島県南相馬市にいました。夏の現地調査の下見のためでした。

夜、ホテルの窓からは、きれいなJR原ノ町駅がすぐ目の前に見えるのに、何の音もしない。出入する人もない。北は津波、南は原発事故で断たれた常磐線の、わずか4駅の運行区間の南端にあるこの駅に、今の福島の苦難のすべてを見る思いでした。同時に、この県から送られる大量の電力で、真夜中過ぎまでギラギラと灯りをつけ、満員電車が走る「東京」が恐ろしくなりました。

文化人類学は、復興には直接役に立たないかもしれませんが。しかし文化とは、「その土地の人々が大事に思うもの」のことであり、それは身の周りの風景だったり、人間関係だったり、食生活だったり、お祭りだったり、その人々にとってあまりにも当たり前の、でもかけがえのないものの総体です。突然の大災害によってそれらを失ったとき、人の集まりは、どのようにしてそれらを(部分的にでも)取り戻していくのでしょうか？この過程に立ち会い、記録することは、歴史の証人になることです。私どもは、その証人になりたかったのです。

南相馬市原町区を選んだのは、二つの理由からです。一つはここが、人が住める中で福島第一原発にもっとも近い大きな町(市政の中心)だからです。市役所や図書館、博物館などは、失われた過去と、手探りの現在と、これから作ろうとする未来を見せてくれます。もう一つは伝統行事「野馬追(のまおい)」で有名だからです。ただし、「南相馬といえば野馬追」と私が知ったのは、2011年以降、マスメディアが復興の象徴として野馬追を報道するようになってからです。皮肉ではありますが、この町との縁をくれた野馬追に感謝しています。

南相馬市、相馬市、新地町などでは、多くの方々が私どもの学びのために、多くの貴重なお時間を割いて下さいました。不躰な訪問や質問にも真摯にご対応下さり、本当にありがとうございます。また、宿泊施設が満杯になる野馬追期間に、南相馬市役所のご厚意で、市営団地の空き部屋に宿泊させていただけたことは大きな助けでした。2週間という限られた時間でしたが、私どもが見聞きしたものを精いっぱい解釈してできたのが、この冊子です。不備はすべて指導教官の未熟さ・不勉強によるものです。ご批判をお待ちしております。

最後に、震災から4年が経っているとはいえ、学生たちは南相馬で2週間を過ごすことにためらいを感じたに違いありません。しかし自分で判断し、この実習に参加してくれたことに、心から感謝したいと思います。ありがとう。皆さんにとって福島が、一生を通じて大事な場所となりますように。

2016年3月 加藤恵津子

Preface

March, 2015. I was in the city of Miniami(-)soma (“southern” part of Soma region), Fukushima, on a preparatory trip for students’ field training in the coming summer.

Looking out from the hotel window in the evening, I was struck by the fact that there was no sound, nor a shadow of a person, around the JR Haranomachi station. The station was on Joban Line, which was made intermittent and paralyzed by tsunami in the north and by the nuclear power plant accident in the south; Haranomachi station was the southern end of the only four functioning stations in the area. Then I was struck by the abnormality of Tokyo, where lights glitter and trains packed by people run until after midnight, all by the electricity sent from Fukushima.

Cultural anthropology may be “useless” in reconstructing disaster-affected areas. Culture, however, means an integration of everything ordinary *and* indispensable for local residents. If an unexpected disaster washes away everything ordinary and indispensable, how does a community retrieve them? Standing by and recoding the process of the retrieval means being a witness of history; and we wanted to be ones.

Hara(-no-)machi ward, Minamisoma was chosen for two reasons. First, it is the nearest habitable big town to the power plant accident site, and the city center. Second, the ward or the city is famous for a traditional festival Noma’oi, which I learned only after 2011. Ironically, the disaster turned mass media’s eyes to the festival, giving me a chance to know the festival and the city.

I would like to express my deepest gratitude to countless people whom we met in Minamisoma, Soma, Shinchi-machi and other places. Especially I thank the city of Minamisoma, which enabled us to stay in a municipal apartment during busy Noma’oi period.

Last, I would like to thank my students for participating in this field trip, despite their initial hesitation they might have had to visit the disaster-affected area, even if 4 years after. I sincerely wish that you all enhance a life-long tie with Fukushima.

Etsuko Kato
March 2016

目次

はじめに	
人類学調査実習日程表	iv
福島県相馬地方 地域紹介	v
南相馬市 地図	vii
フィールドからの報告	
相馬野馬追を「みる」：相馬地方の人々の視点から 林沙也香	1
多様な像としての相馬野馬追：野馬追がもつ「復興」の意味とは 上村史佳	11
人々をつなぐ民俗芸能：震災後の民俗芸能の役割とその後継 佐藤茂毅	27
光を浴びない文化財から見る復興のかたち 籠原怜那	37
象徴としての九曜紋：多様化する意味と価値 村岡美和	48
観光で見る南相馬：南相馬の特性を活かした観光の形 松尾彩花	63
墓からの呼び声：震災をめぐる墓の形 小林美紗子	79
変化した「日常」：原発事故がなにを変えたか 大岡幹	87
子どもを取り巻く「被災地」という環境 榊原優希	94
「復興」という旗：個々人で異なるこころの復興の在り方 原田京佳	105
お楽しみページ ～そうだ、そうま、いこう～	
他己紹介（原田京佳によるメンバー紹介）	116
みんなに質問コーナー	118
大学の文化祭に参加しました！	120
編集後記	122

2015 人類学調査実習 日程表

7月13日 南相馬市到着
ロイヤルホテル丸屋チェックイン
南相馬市役所復興企画部訪問
南相馬市観光協会/銘醸館訪問

7月14日 南相馬市博物館訪問（二上さんのお話、展示見学）
観光協会訪問

15日 常盤線乗車
相馬市歴史資料収蔵館見学、岩崎先生・大谷さん講話

16日 原町区太田・農場見学（杉内さんのお話）
小高区ツアー（島尾さんガイド）

17日 高橋甲冑工房
県立原町高校訪問

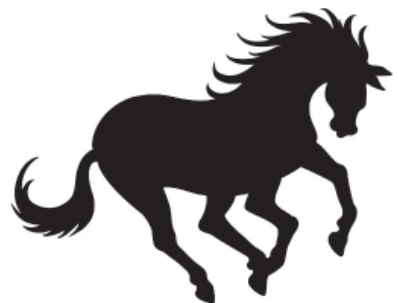
18日 自由調査

19日 民宿「いちばん星」宿泊
星さんツアー（沿岸部、アグリパーク、馬牧場等巡り）

20日 星さんツアー続き

21~24日 自由調査

25~27日 野馬追見学



相馬地方 地域紹介

今回の文化人類学調査実習では、福島県の相馬地方、主に南相馬市をフィールドとした。実習生らは南相馬市内に2週間滞在して各々のテーマに基づいて調査を行った。

〈地理〉

相馬地方とは福島県浜通りの北部に位置する相馬市、南相馬市、新地町、飯館村の総称である。南相馬市は北から鹿島区、原町区、小高区に分かれている。緑豊かな阿武隈山地と太平洋の自然が感じられる温暖な地域である。福島市内からはバスで約2時間かかる。常磐自動車道は平成27年3月に全線開通し、東京から相馬地方を通過して仙台まで繋いでいる。相馬野馬追をはじめとする文化財や、民謡、史跡などが多く存在しており、文化に富んだ地域である。

〈歴史〉

鎌倉時代末期に平将門が祖とされる千葉一族の相馬重胤らが陸奥国行方郡に下向し、現在の南相馬市小高区小高に小高城を築いて勢力を拡大していったのが相馬地方の起源である。その後明治時代まで相馬家が単独の君主としてこの地方を統治した。相馬氏は宮城県仙台市を支配していた強大な伊達氏と対立していたが、勝たず負けずの関係を続けていた。相馬家は江戸時代初期に現在の相馬市に築いた中村城に移り、相馬藩(中村藩、相馬中村藩とも呼ぶ)として現在の相馬地方を平定した。一度も国替えが無く、安定していたことによって、相馬野馬追を「一千有余年続く伝統」のお祭り

として継承し続け、その他の文化も安定して育むことが出来た。また、この歴史は誇りとして地域の人々に受け入れられている。

〈東日本大震災〉

2011年3月11日の東日本大震災において相馬地方は震度6強を経験し、沿岸部では大津波が、さらには福島第一原子力発電所の事故によって甚大な被害を受けた。現在でも除染作業は進行中であり、仮設住宅などで避難生活を余儀なくされている人々が多くいる。また、JR常磐線は一部区間で運転をしていない。

各地方によってその被害の大きさ、内容は様々である。揺れ、津波、原発事故の放射能被害など、抱える問題の種類とそれらの大きさが復興の進み具合にも差を生み出している。原発事故は複雑で問題を多く生じさせている。未だ立ち入り制限がある地域や、除染作業というステップを踏まなければならない地域では、建物を修復できない、新たに建てる土地もない、といった課題を抱えている。原発からの距離によって避難等の制限が、補償金が規定される。そのために地域内においても分断が生じてしまっているのが現状だと感じる。震災による被害は直接の物理的・精神的なものだけでなく、このような葛藤も含まれるのである。被災状況の差とそれに伴う復興へのステップ数、かかる時間、費用などの差が顕著にあるため、「被災地」とひとくくりにとまとめてしまっはいけないと考える。

東日本大震災は相馬地方の豊かな文化にも被害をもたらした。存続の危機にさらされたものがほとんどであるが、同時に震災後に強く認識されるようになった文化も多くある。文化の再建と地域の復興は密接に関連しており、人々は歴史ある文化を、地域の誇りを再起させようと奮起している。相馬地方の誇り高き歴史と豊富な文化には特別な力があるように感じる。

〈キャラクター紹介〉



「のまたん」は南相馬市の公式ゆるきゃらで、野馬追に馬ではなく武者として出陣するのを夢見ている仔馬。兜の黄緑色は阿武隈山地などの豊かな自然の恵み、水色の鬘と尻尾は清らかな川、青い帯は海を示している。

のまたんはゆるきゃらグランプリに出場したり、ツイッターをやっていたりと大忙したが、「着ぐるみ貸出」のスケジュールが組まれているなど、現実味のあるキャラクターでもある。

(文責：村岡美和)



「相双神旗ディネード」は福島県の相双地域を拠点に活動しているご当地ヒーロー。東日本大震災によって封印が解かれた悪の組織ゴンケー集団と、農家の跡取りである相神ディネードと漁師の娘である双神ミネートが戦う話。必殺技は妙見ブレードで繰り出す「宵乗り斬り」。内容はただ悪と戦うだけではなく、放射能のことや自然破壊のことに触れるなど、奥が深いものとなっている。

ディネードという名前は、「負けるんじゃないぞ」という意味の福島弁「負けるんでねーど」からきている。

参照文献

相馬地方市町村会

nd. 『相馬地方とは』、相馬地方御案内処
〈<http://www.soma-area4.jp/aboutus.htm>〉2016年2月23日閲覧。

相双神旗ディネード公式ブログ

〈<http://obakeyasiki.seesaa.net/>〉2015年10月21日閲覧。

相双神旗ディネード公式 Twitter

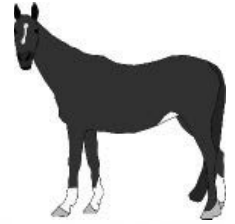
〈https://twitter.com/Fukushima_Hero〉2015年10月21日閲覧。

南相馬市ふるさと回帰支援センター

nd. 『情報♪のまたん』〈<http://www.msouma-furusato.jp/event/hhurusatodayor2.html>〉2015年10月21日閲覧。

南相馬市 地図

実習中に滞在していた南相馬市の
思い出深い場所を紹介します。



雲雀ヶ原祭場地
甲冑競馬、神旗
争奪戦開催地

太田神社
野馬追大名行
列出發

相馬小高神社
野馬懸開催地

**南相馬市役所
銘醸館**

国道の駅「南相馬」

TEL.0244-26-5100
FAX.0244-26-5101
(株)野馬追の里

農産物直売所

観光物産館「四季彩」
農産物直売所北田40
海、山、川の自然を四季折々の産
品を展示販売しています。ぜひ南相
馬の心を感じてください。
TEL.0244-46-1414

まちなかひろば

原町区南町1丁目B29
野菜、惣菜、花、工芸品の販売販売。
TEL.0244-26-8026
FAX.0244-26-8026